

春彩る幻想的な光



やわらかな明かりで夜空に浮かび上がった本妙寺参道の桜
=2018年3月

本妙寺桜灯籠

西区花園

和紙灯籠や竹灯籠など約4千のやわらかな明かりに照らされ、本妙寺の参道沿いにらんまんと咲く桜が夜空に浮かぶ。2002年に始まったイベントは今や、熊本市の春の風物詩として定着している。

イベントは毎年3月の最終

土曜日に開かれる。会場は仁王門から拝殿までの参道約600m。沿道では琵琶やギターが奏でられるほか、露店やバーも立ち並び、市内外の見物客でにぎわう。

初回は崇城大で建築の研究をしている内丸恵一講師(60)

や学生らの小さな祭りだったが、2回目以降は地元自治会のメンバーも参加。花園小の子どもたちも和紙灯籠の制作に協力するなど住民ぐるみで見物客をもてなしている。

17年は熊本地震の影響で中止。多くの市民が18年の再開を喜んだ。実行委員会の境長一郎事務局長(63)は「若い世代にも運営に関わってもらい、息の長い取り組みにしたい」と話している。

(猿渡将樹)



本妙寺桜灯籠に向けて和紙灯籠を作る花園小の児童

||2018年3月